学校番号	３１７

平成 31 年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ａ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「数学Ａ　Advanced」　（東京書籍）						
副教材等	ＰＲＩＭＥ（東京書籍）、ニューアクションβ（東京書籍）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業では、教科書の内容を中心的に学習していきます。日々の学習の仕方として、毎時間学習した内容（例題や問い）を、もう一度解くようにしましょう。また、同じ内容の問題が、副教材のＰＲＩＭＥや参考書のニューアクションβにもあります。教科書の例題や練習問題を解くことができるようになったら、こちらの問題も取り組んでみてください。

問題を解き終わった後には、答え合わせをしましょう。このとき、答えが正しいのか誤りなのかだけを見て終わるのではなく、解説をよく読んで、解き方や途中式にも目を通してください。そして、自分の力だけで解けるようになるまで、何度も取り組むようにしましょう。

問題集や参考書の解答は提出用のノートに、途中式や求め方も記入し、担当の先生の指示に従って提出してください。

2　学習の到達目標

・場合の数と確率，整数の性質又は図形の性質についての基礎的な知識や技能を習得する。
・様々な事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにする。
・数学を問題の解決に活用する態度を身に付ける。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	場合の数と確率,整数の性質又は図形の性質の考え方に関心をもつとともに,数学のよさを認識し,それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり,思考の過程を振り返り多面的･発展的に考えたりすることなどを通して，場合の数と確率，整数の性質又は図形の性質における数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率，整数の性質又は図形の性質において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	場合の数と確率，整数の性質又は図形の性質における基本的な概念，原理・法則などを理解し，知識を身に付けている。
評価方法	・授業の取り組み ・提出物	・定期考査 ・授業の取り組み	・定期考査 ・提出物	・定期考査 ・授業の取り組み

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	場合の数と確率	・集合 ・場合の数	○			○	a:場合の数を求めるときの基本的な考え方を事象の考察に活用しようとしている。 d:具体的な事象の考察を通して，順列及び組合せの意味について理解している。	・授業の取り組み ・提出物 ・定期考査
		・確率とその基本性質	○		○	○	a:確率を事象の考察に活用しようとする。 c: 確率の意味や基本的な法則を用いて，事象の確率を求めることができる。 d: 確率の意味や基本的な法則について理解している。	
二学期		・いろいろな確率	○		○		a: 独立な試行の意味を理解し，それを事象の考察に活用しようとしている。 条件付き確率の意味を理解し，それを事象の考察に活用しようとしている。 c: 独立な試行の確率や条件付き確率を求めることができる。	・授業の取り組み ・提出物 ・定期考査
	図形の性質	・三角形の性質 ・円の性質	○		○		a:三角形や四角形といった，平面図形の性質について理解を深め，それらを事象の考察に活用しようとしている。 c: チェバの定理・メネラウスの定理を図形の考察に用いることができる。	
三学期		・円の性質 ・作図 ・空間図形	○	○			a: 空間における直線や平面の位置関係やなす角，多面体などの性質について理解を深め，それらを事象の考察に活用しようとしている。 b:平行な直線，内分や外分といった図形の性質を理解し，作図することができる。	・授業の取り組み ・提出物 ・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:数学的な見方や考え方
c:数学的な技能　d:知識・理解

※　年間指導計画作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。